

# オフィスチェッカーファースト タイプ分け基準と診断コメント

モノの量	環境整備	企業文化 風土	タイプ名称	診断コメント
70を超える	70を超える	65を超える		
○	○	○	生産性の高い業績アップ型オフィス	このタイプは企業としての環境整備、人材育成、コミュニケーション、快適性を維持する整理収納のスキルも高いオフィスです。無駄の削減や新しいビジョンへの挑戦など前向きな取り組み姿勢が見て取れます。そのため、生産性が高く業績が向上しているオフィスです。定期的な維持管理と時代に合わせたニーズの取り込みなどでさらに、従業員様にとって快適度は向上していきましょう。
○	○	×	知的生産性の育成が遅れているオフィス	このタイプは一通りの環境は整備され、整理収納の仕組みが出来ているオフィスです。しかし、従業員の感じ方や考え方はそれぞれ違って、表面的には協調性があるように見えますが、全員が一丸となって一つの事にチャレンジしても必要とする結果は得にくいでしょう。一人一人の従業員の知力や知識を集結させ企業としての創造性を高めることが生産性向上につながります。方針やビジョンの共有や専門スキルの習得など、人材育成を計り従業員力を向上させることが必要です。
○	×	○	環境整備がなおざりにされているオフィス	このタイプは従業員のコミュニケーションやビジョンの共有がなされており、また、業務を効率よくこなす仕組みの作られています。しかし、環境整備の面はなおざりにされているところが見受けられます。流行を追いかける必要はありませんが働き方改革を進めるうえで時流に即した環境整備は従業員のモチベーションをアップさせ、知的生産性を向上させるうえでも必須の条件になるでしょう。
○	×	×	業務停滞・業績横ばい型オフィス	このタイプはオフィスの環境整備が整っておらず、また従業員間のコミュニケーションが取れていない、目的の共有化がなされていない点が挙げられます。またモノの量は多くないことから、業務自体が停滞していることが考えられます。まず理念やビジョンを従業員間でしっかりと共有し方向性を揃えましょう。環境整備は見た目が変わることで従業員に大きなメッセージを発信することが出来ます。商品開発や戦略、戦術の実行には人材育成が重要なポイントで目標に対してチャレンジする企業風土を作り上げることが必要です。
×	○	○	業務多忙、コスト浪費型オフィス	このタイプのオフィスは仕事をする上での環境整備は整っており、社内のコミュニケーションや方針の共有は出来ています。しかしモノの量が多く、整理収納が出来ていない状態です。つまり日々入ってくるモノの量が多く、増えるままになっている可能性があります。モノを減らす努力や工夫が必要になるでしょう。ペーパレス化への取り組みや、モノの所有者を明確にする、廃棄時期を明確にするなどの共通のルールを設定して全従業員で運用することが他必要です。整理収納の効果や目的を理解し、共有することは、オフィス環境の快適度を上げるためにはとても重要な要素です。
×	×	○	成果を生まない仲良しクラブ型オフィス	このタイプのオフィスは最低限の環境整備にも問題があり、スペースの不足から収納場所も不足し、モノがいっぱいの状態です。社内のコミュニケーション・方針は一見、共有されているようですが、個々、それぞれが頑張っている部分はありますが共同で従業員の力を結集して成果を生み出す方向に向かっていません。環境整備や企業としてのシステムや仕組みなど具体的な対策の仕方や方法を考えて着手すれば、オフィス環境の快適度は大きく改善され生産性は向上するでしょう。「餅は餅屋」の例えのように専門家のアドバイスを受けたり、コンサルティングの相談をされるのも一つの方法です。
×	○	×	中身が伴わない見かけ倒し型オフィス	このタイプのオフィスは「仏造って魂入れず」の例えがあるように、環境整備はきちんと対策をしているにもかかわらず、会社のビジョンや方針の共有が出来ていないため、書類やモノの量の管理が出来ずに生産性が上がっていません。一通りの環境整備が整ったら社内のコミュニケーションが活性化するような使い方を考えたり、コミュニケーションが取れるような社内の仕組み、明確なビジョンを打ち出して全従業員の方向性を揃えるなど組織を充実させていく必要があります。
×	×	×	生産性が上がらない業績低迷型オフィス	このタイプのオフィスは最低限の環境整備にも問題があり、スペースの不足から収納場所も不足し、モノがいっぱいの状態です。社内のコミュニケーション・方針の共有などに問題があり、成果を作れる状況がありません。「隗(かい)より始(はじめ)めよ」の例えのように、企業としての原点を見つめなおし、モノづくりや、商品・サービスに対する企業理念から全員で見つめなおしましょう。その後、社内の仕組みづくりや環境整備に着手することが最善の方法だと考えられます。